

いづばん質問

本定例会での一般質問は、10人の議員が登壇し、さまざまな角度から市政をただしました。質問(Q)と答弁(A)を要約してお知らせします。

※会派に所属していない議員につきましては、氏名の下の会派名は記載していません

「合衆市花巻構想」の内容は

区域を位置づけ財政基盤を整備



大原 健 議員 (花巻クラブ)

市長選挙において「合衆市イーハトーブ花巻構想」を掲げていたがその内容について伺う。

A(市長) これまで「小さな市役所構想」で実践してきたコミュニティ会議の形を基本としつつ、27の区域を小さな州に例え、区域などを条例に位置づけ、財政基盤を整えることで、それぞれの地域が主体的に安定した地域づくりを進めるための

施策として、将来の姿を想像しやすい名前をつけたものである。

図書館を複合施設に 花巻図書館は、老朽化・狭隘化するなど多くの課題があり、新設が期待されている。一方で市長は、本市ゆかりの多く

の偉人を顕彰する先人記念館を建てたいとの話をしている。そこで、それぞれ単独の施設ではなく、複合施設として建設した方がいいと考えるが見解を伺う。

A(市長) 複合施設は、それぞれ機能分担による相乗効果や、財政面でのメリットがある。引き続き市民や関係団体等の意見を聞きながら、場所、跡地等の利活用、中心市街地の活性化などを念頭において検討していく。



「地域の元気」フェスティバルでは、コミュニティ会議の地域の特色を生かしたまちづくりの紹介やステージ発表などが行われました(11/14 田瀬激流太鼓)

戸別所得補償モデル対策の対応

改善が必要な場合は国へ要望



自給率向上のため、本年4月から戸別所得補償モデル対策が始まりました



藤原 晶幸 議員 (明和会)

Q 主食用米の生産費を補償する米戸別所得補償モデル事業と、転作に助成する水田利活用自給力

向上事業の二つの事業からなっているモデル対策だが、いろいろな課題が想定されているが、その対応について伺う。
A(農林水産部長) この制度は、平成23年度から本格実施の予定であり、これまでの農政とはまったく異なる手法である。

Q 少子化問題対策は 本市の人口は平成22

年1月末で9カ月連続の減少との発表があった。人口減少・少子化による経済社会への影響がさまざまな分野で深刻になりつつある。本市としても少子化対策は最優先課題と思うがどうか。
A(健康こども部長) 少子化対策は、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが大切であり、子育てに関する相談体制や子育て負担の軽減など総合的な支援の充実に努めていく。

大迫地域医療の確保どう対応

方針説明し理解を求めていく



若柳 良明 議員 (平和環境社民クラブ)

Q 大迫地域医療の住民要望をどう集約し、医療を確保するため今後どのように対応するのか。

A(健康こども部長) これまで懇談会を開催し地域のかたがたと意見交換を行ってきた。地域の要望である外来診療科目の維持、入院ベッドの確保、救急医療体制の充実の3つの要素をできるだけ残すため、診療センター継続による外来診療維持、

空きスペースを老人保健施設として活用、救急車の増車という市の方針を示している。引き続き地域のかたがたに説明し、理解を求めていく。
地元産木材の活用を 林業振興の観点から、公共施設への地元産木材

の活用と調達も考える必要がある。市有林の活用策を考えるべきと思う。これに関してプロジェクトチームを作って検討する考えはないか。
A(農林水産部長) 健全な森林の育成には地元産材の活用が不可欠と考え、市有林の徐間伐等の整備を進めている。今後は、公共施設整備部署と連携を図り、施設の計画時から材料の入手方法等、市有林活用のための仕組みづくりを検討していく。



大迫地域診療センターに係る市長との懇談会(2/18 大迫交流活性化センター)